

製品名: iPLA2 γ ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12704**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	88kDa

抗原情報

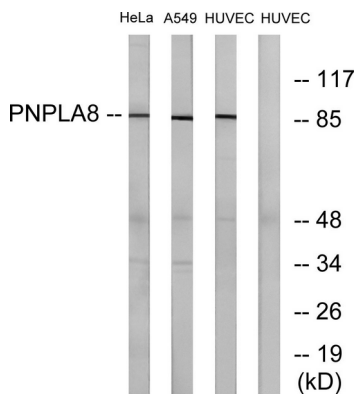
遺伝子名	PNPLA8
別名	PNPLA8; IPLA22; IPLA2G; BM-043; Calcium-independent phospholipase A2-gamma; Intracellular membrane-associated calcium-independent phospholipase A2 gamma; iPLA2-gamma; PNPLA-gamma; Patatin-like phospholipase domain-containing protein 8; iPLA
遺伝子 ID	50640.0
SwissProt ID	Q9NP80
免疫原	抗血清はヒト PNPLA8 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 691-740

背景

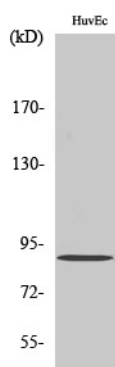
この遺伝子は、パタチン様ホスホリパーゼドメイン含有タンパク質ファミリーのメンバーをコードします。このファミリーのメンバーは、膜リン脂質からの脂肪酸の分解を触媒するホスホリパーゼです。この遺伝子の産物はカルシウム非依存性ホスホリパーゼです。この遺伝子の変異は、乳酸アシドーシスを伴うミトコンドリアミオパチーと関連付けられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。 [RefSeq 提供、2015年5月],触媒活性: 2-リゾホスファチジルコリン + H(2)O = グリセロホスホコリン + カルボン酸塩。 ,酵素調節: E-6-プロモメチレン-3-1-ナフタレニル-2H-テトラヒドロピラン-2-オン (BEL) によって阻害される。 ,機能: カルシウム非依存性ホスホリパーゼ A2。 グリセロリン脂質の sn-2 位、PtdSer、および程度は低いが PtdCho の加水分解を触媒する。 膜リン脂質を切断する。 ,類似性: 1つのパタチンドメインを含む。 ,組織特異性: 心臓、骨格筋、胎盤、脳、肝臓、膵臓などの実質組織で発現。 気管支上皮細胞および腎臓でも発現する。 最も高い発現は骨格筋と心臓で観察されます。

研究分野

画像データ



PNPLA8 抗体を用いた HUVEC、HeLa 細胞、A549 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 希釈の iPLA2γ ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析